

『神は速やかに』 (ルカの福音書 18章 1-8節) 2022.11.6.

<はじめに> 誰かに頼み事をするとき、相手にできるかどうかを考えてしまいます。祈るときにも同じように考えてはいないでしょうか。

I 祈るべきか、祈りたいか(1-3)

①人が祈るのは(2-3)

往々にして願い事がある時です。自分ではどうすることもできないけれども、何とかしてもらいたい、と切迫感を感じ、自分よりも力ある方ならできるはず、と期待するからです。たとえに出て来るやもめもそうでした。

②私を守ってください(3)

具体的なことは分かりませんが、やもめはある人から訴えられて追い詰められていたようです。生活する中で私たちにも追い迫る問題課題があり、悩まされています。それでも日々生きていくために、誰かに助けを求めることは決して悪いことではありません。

③神に関わってもらう

神に祈るとは、生活の中に神を招き入れ、関わってくださるよう願うことです。言い換えると、私自身とその周辺にあることを一つ一つ取り上げて、神の支配と権威の中に置き、任せることです。私の祈りの言葉が聞こえる範囲内に神はおられます。

II たとえ以上の神

①この町に裁判官がいた(2、4)

公に認められた裁判官は、権威と権力を持って人間社会の様々なトラブルを裁定します。やもめの住む町にも裁判官がいました。どんな裁判官でしたか。やもめが裁判官に願ったのは、彼の人柄や態度が良く、気に入ったからでしょうか。

②してやることにしよう(5-6)

この裁判官はあくまで自分本位ですが、それでもこのやもめのために裁判をしようとします。理由は、何とかしてほしい、と彼女が何度もやって来て、煩わされることに根負けしたのです。イエスは「不正な裁判官が言っていることを聞きなさい」と言われます。

③まして神は(7-8)

私利私欲に満ちた裁判官でさえ、間断なき訴えに根負けして動きます。ならば神は彼以上ではないか、とイエスは言われます。どんな点で神はこの裁判官よりも優る方でしょう。だから、いつでも、どんなことでも祈り続け、諦めて祈ることを止めてはなりません。

III はたして地上に(8)

①さばきを行う方として

「…してください」と「さばいてください」では何が違うでしょう。さばくとは権威をもって判断を下すことで、必ず実行されなければなりません。祈り願うことを神が判断されたなら、いずれの答えでも応じる覚悟が、祈る側にも求められています。

②人の子が来るとき

いつ、この祈りが答えられるかどうか、に人は注目します。しかし、イエスは「神は速やかにさばきを行う」と確言されます。私たちのところに来てくださり、関わってくださる人の子イエスを見出すときこそ、祈りが答えられたと知る瞬間・場面です。

③落胆・失望から信仰へ

祈りの応答としてのさばきの時機・内容・方法は人の子イエスが握っておられます。この方がなさることは確かです。間に合わなかったり、失敗したりされません。それを祈るときから告白・宣言するのです。見ないで信じるとは、祈りに答えられる神への絶大な信頼です。

<おわりに> 祈りの結果を見るまで不安はこみ上げてきます。ならば、それも含めて神に訴え祈るうではありませんか。「神様、この問題を見て知ってください。そして、私の知らないあなたの時・あなたの方法で、どうぞ関わってください」と。(H.M.)